



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



北九州市グリーン成長戦略について

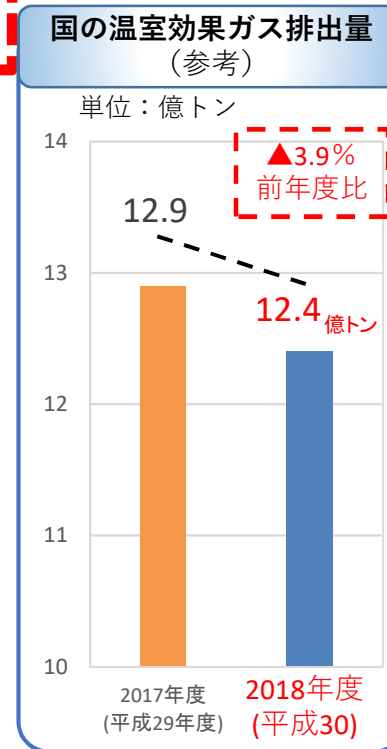
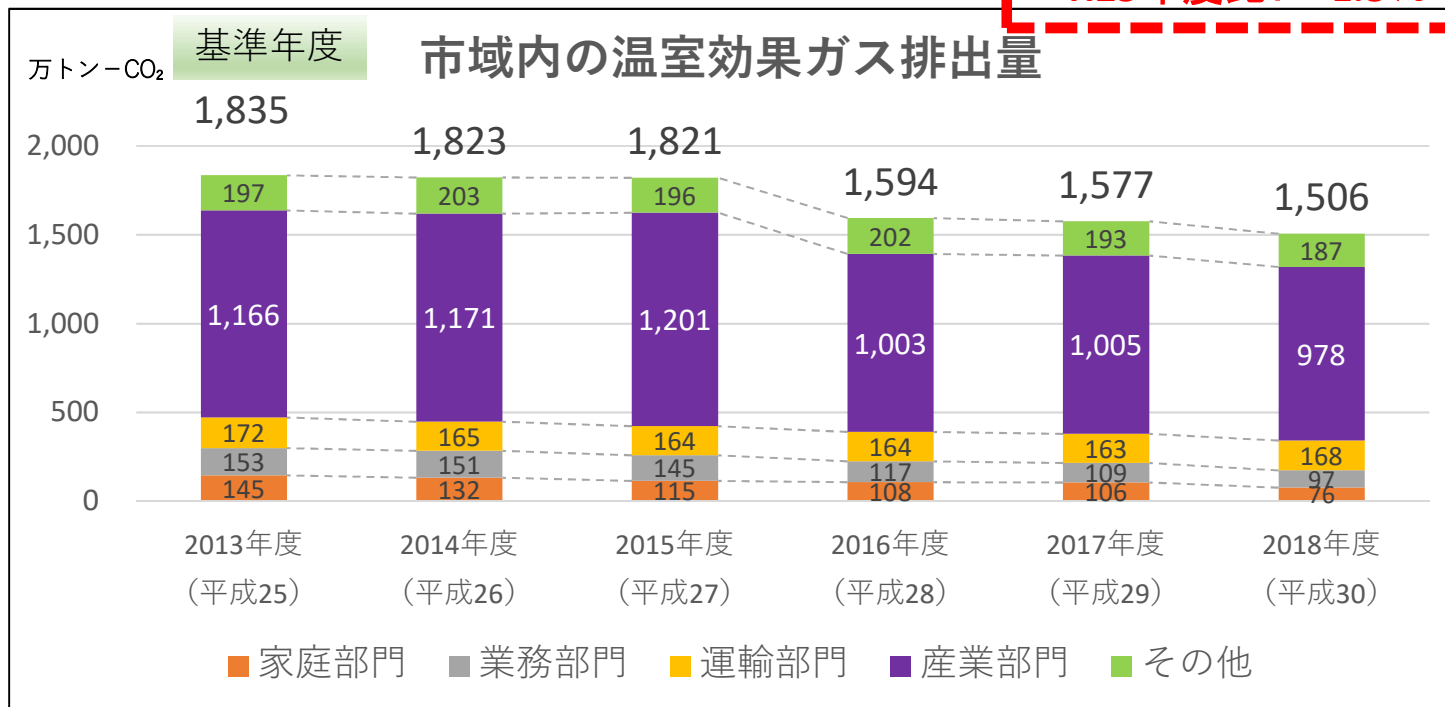
令和4年3月5日

北九州市 環境局 環境イノベーション支援課

北九州市の温室効果ガス排出量 (平成30年度までの推移)

- ▶ 平成30年度の温室効果ガス排出量は、1,506万トン
- ▶ 東日本大震災の影響で火力発電が増加し、一時は2,000万トンを超える状況が続いたが、省エネルギーの推進や再エネの普及により、直近では基準年度を下回っている(平成25(2013)年度比▲1.8%)。

前年度比: ▲0.4%
H25年度比: ▲1.8%

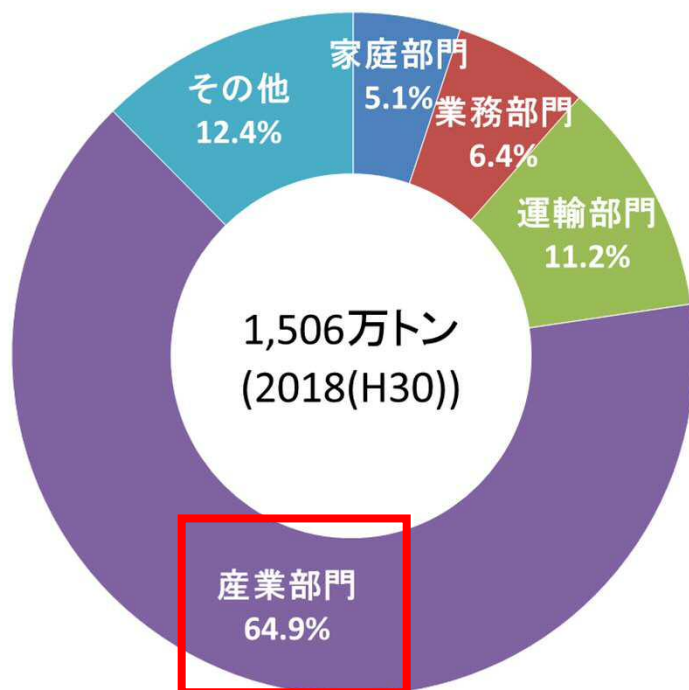


※その他・・・エネルギー転換部門(発電所、ガス工場、製油所等での自家消費分)、廃棄物部門(廃棄物の焼却処理等に伴って排出)、工業プロセス部門(セメント製造時に発生)、メタン、一酸化二窒素、フロンガスの計

部門別割合（平成30年度）

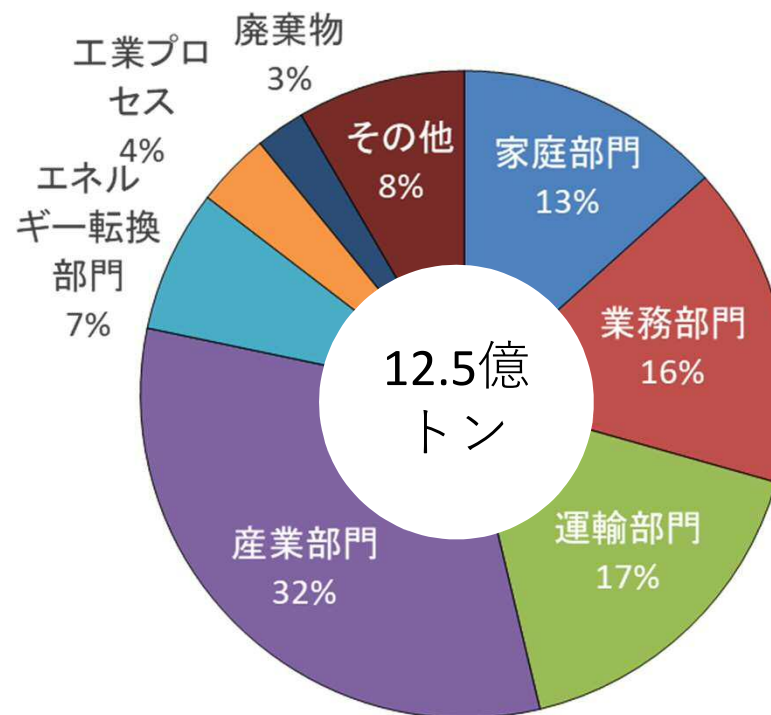
▶ 本市では、産業部門からの排出が、市域全体の排出量の約6～7割を占める

北九州市 (1,506万トン)



※ 北九州市の「その他」は、エネルギー転換部門、廃棄物部門、工業プロセス部門、メタン、一酸化二窒素、フロンガスの計

日本全体 (12.9億トン)



出典) 国立環境研究所HPより

北橋市長の「ゼロカーボンシティの表明」

(令和2年10月29日 定例記者会見)

市長の部屋へようこそ

こんにちは、北九州市長の北橋です。
ここでは、定例記者会見や出席した式典・行事等を紹介しています。
少しでも市政を身近に感じていただけたらと思います。



2つ目は、今後の地球温暖化対策の取組みに関する本市の新たな考え方についてです。

10月26日に菅首相は、国会での所信表明の中で、国として「2050年までに脱炭素社会の実現を目指す」ことを明らかにされました。

総理の宣言によって、今後、経済界、産業界を含め、「脱炭素」に向けた研究開発や様々な動きが加速していくものと期待できることから、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいる本市としましても、大いに歓迎をしたいと考えます。

産業都市である本市にとって、「脱炭素社会の実現」は大きな課題ではありますが、「環境と経済の両立」「環境と経済の好循環」というのが、北九州市モデルです。この好循環に貢献するため、本市としても、国と同様、10月29日に「2050年までの脱炭素社会の実現（温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする）」を目指す、ゼロカーボンシティを表明しました。

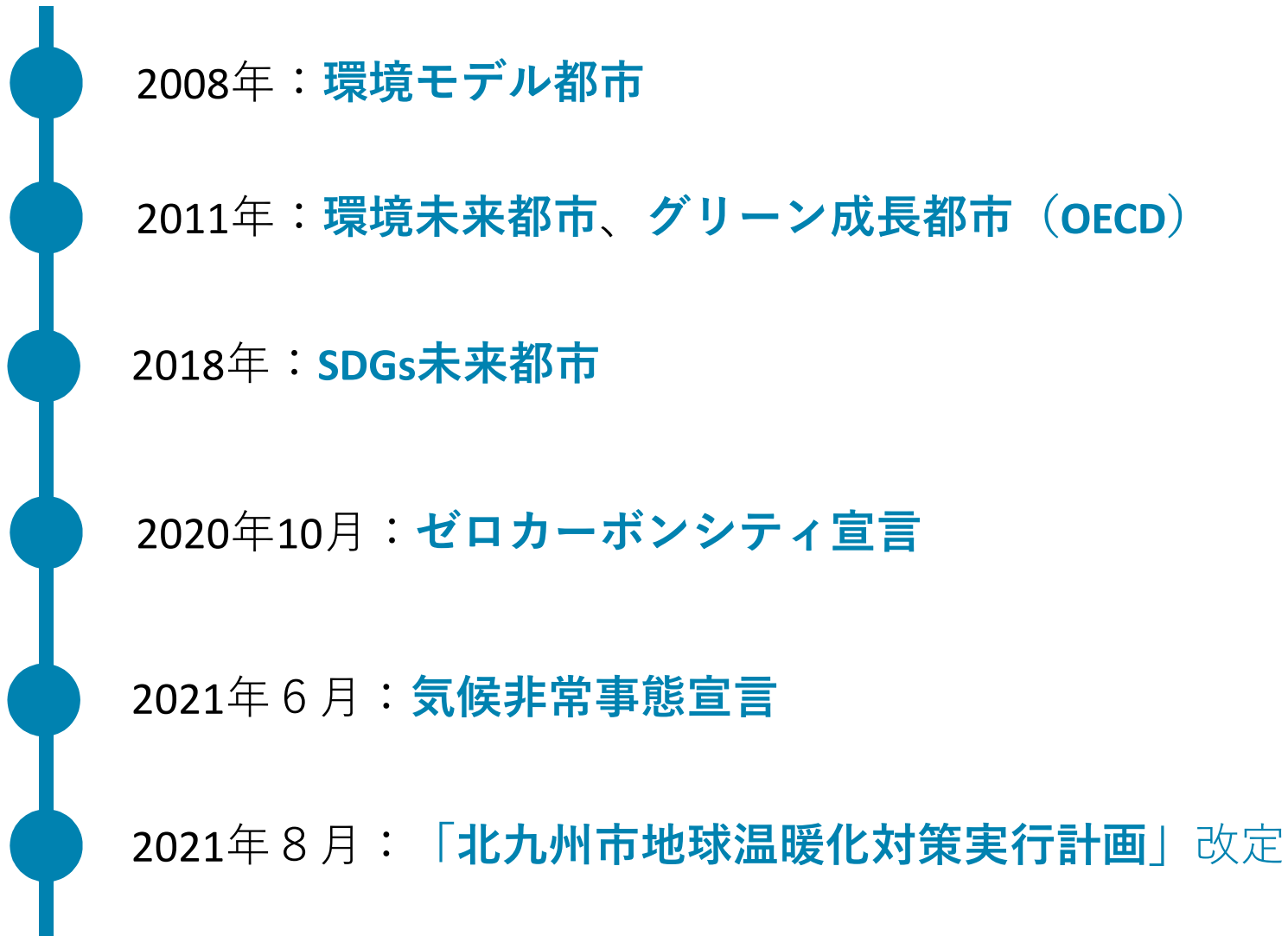
北九州市では、「地球温暖化対策実行計画」を改定するため、環境審議会で鋭意審議しており、来年の策定を予定しています。

今後、環境審議会をはじめ、各界のご意見を伺いながら、具体的な取組について議論を深めていきたいと考えております。

これまで以上に市民の皆様、各界のご理解、ご協力をお願いいたします。

北九州市長 北橋 健治

環境先進都市としての歩み



グリーン成長戦略の位置づけ

【世界の動向】

国連気候変動枠組条約・パリ協定

国内法の整備

【国の動向】

地球温暖化対策推進法
地球温暖化対策計画

気候変動適応法
気候変動適応計画

国の計画に即して

地域実行計画

地域適応計画

【市民等の行動指針】

環境首都
グランド・デザイン

行政計画として具体化

【本市の施策】 <上位計画>

北九州市基本構想・基本計画

北九州市環境基本計画

部門別計画

北九州市地球温暖化対策実行計画(R3年8月改定)

部門別計画

北九州市グリーン成長戦略

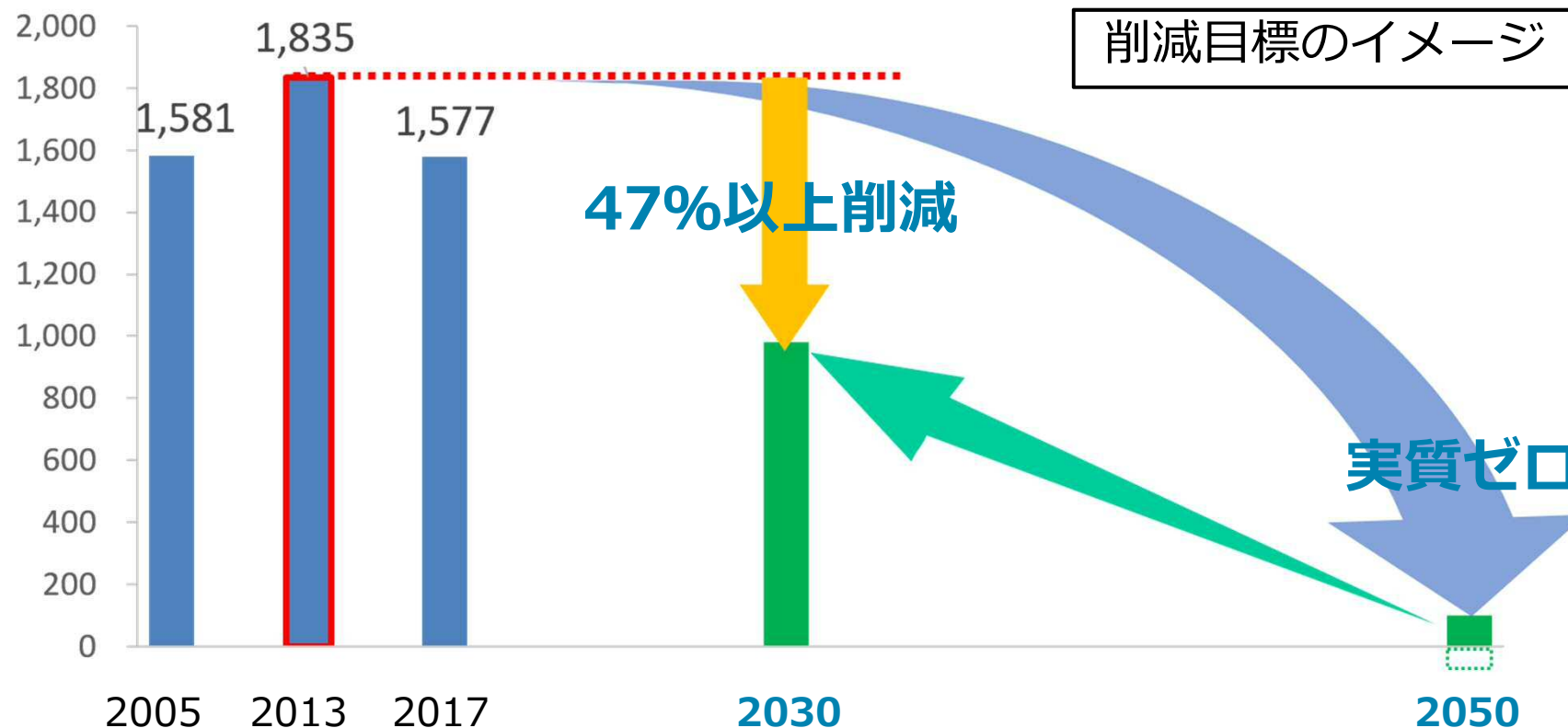
北九州市の温室効果ガス削減目標

2050年（目指すべき姿：ゴール）

市内の温室効果ガス排出の**実質ゼロを目指す**

2030年度（達成目標：ターゲット）

2013年度比で**47%以上削減**



2050年の目指すべき姿

「グリーン成長戦略」

全部門

I エネルギーの脱炭素化

電力、熱、運輸などあらゆる分野で、これまで以上の省エネ、電化を進め、再エネやCO₂フリー水素を最大活用することで、化石燃料から脱却し、エネルギー全般を脱炭素化

II イノベーションの推進

産業部門

産学官の連携で、脱炭素化に必要な研究開発を加速させ、イノベーションの早期実現を図ることで、生産活動やサービスなど、産業・経済社会を脱炭素化

2050年
北九州市が目指す
脱炭素社会
「北九州モデル」
(環境と経済の好循環)

家庭部門
業務部門

III ライフスタイルの変革

高い市民環境力を基礎にAI・デジタル化等の社会変革を踏まえた、快適で質の高い、脱炭素型ライフスタイルに転換

IV 気候変動に適応する強靱なまち

適応

気候変動の影響に対応するため、域内全体での蓄電システムを構築し、災害時の再エネによる電源確保など脱炭素で、強靱なまちづくりを推進

V 国際貢献

近代産業発祥の地から「北九州モデル」を構築・展開し、脱炭素社会の実現に地球規模で貢献

北九州市グリーン成長戦略の重点施策

①経済性の高い脱炭素エネルギーの安定供給、 脱炭素エネルギーの利活用による既存産業の脱炭素化・新産業の創出

脱炭素電力推進

- 第三者所有方式によるPV、EV・蓄電池の導入、脱炭素電力の利用拡大
- 風力発電の導入促進、風力関連産業の総合拠点化

水素供給・利用

- 水素利活用の拡大に向けた連携体制の構築
- 既存インフラを活用した水素供給の推進、国際サプライチェーン構築の検討
- 市内水素を活用した水素の需要喚起
ゼロカーボン物流の形成

②イノベーション創出に向けた企業支援

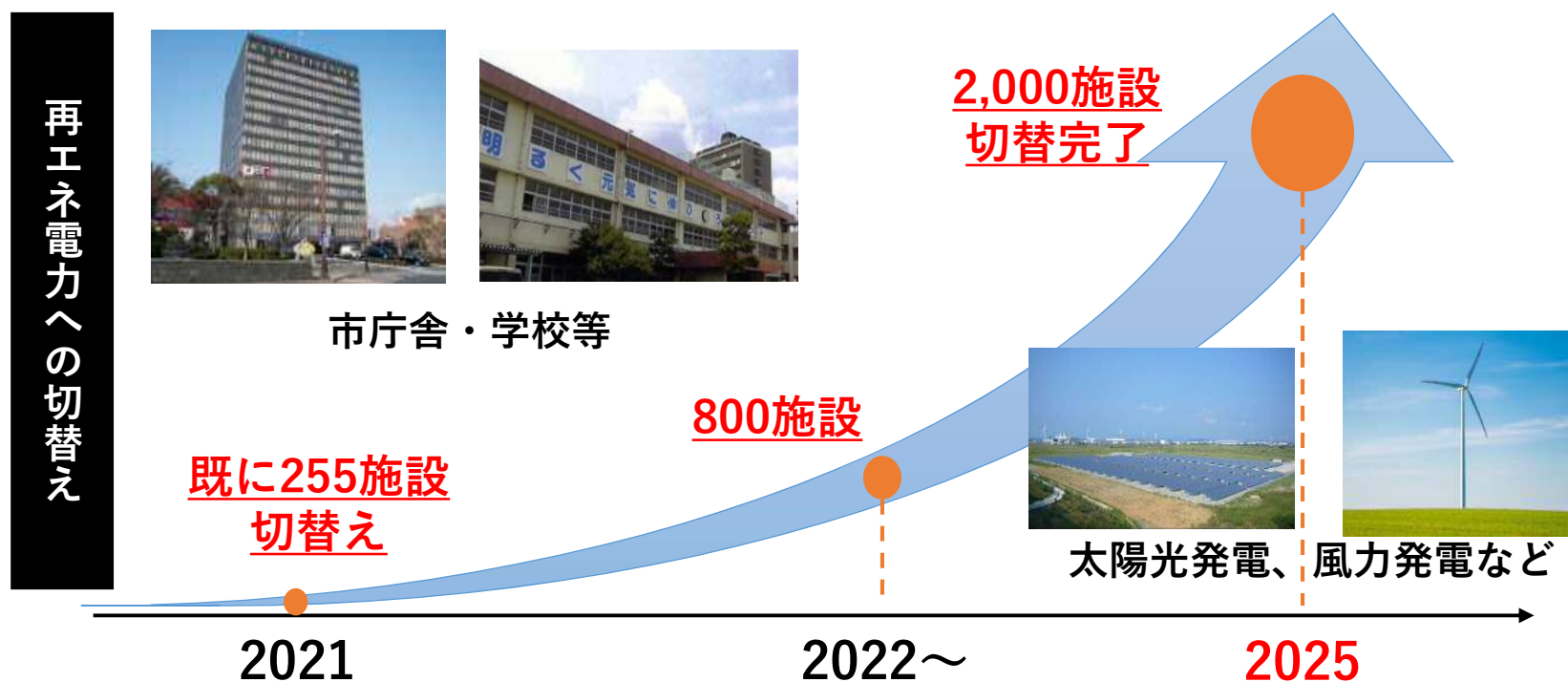
- 脱炭素関連事業創出に繋がるプラットフォームの整備
- 公的資金の有効活用及び民間資金獲得に向けた伴走支援
- 脱炭素社会を推進する人材育成・獲得

イノベーション

アジアを中心とする海外マーケットへの展開
③今後拡大が見込まれる

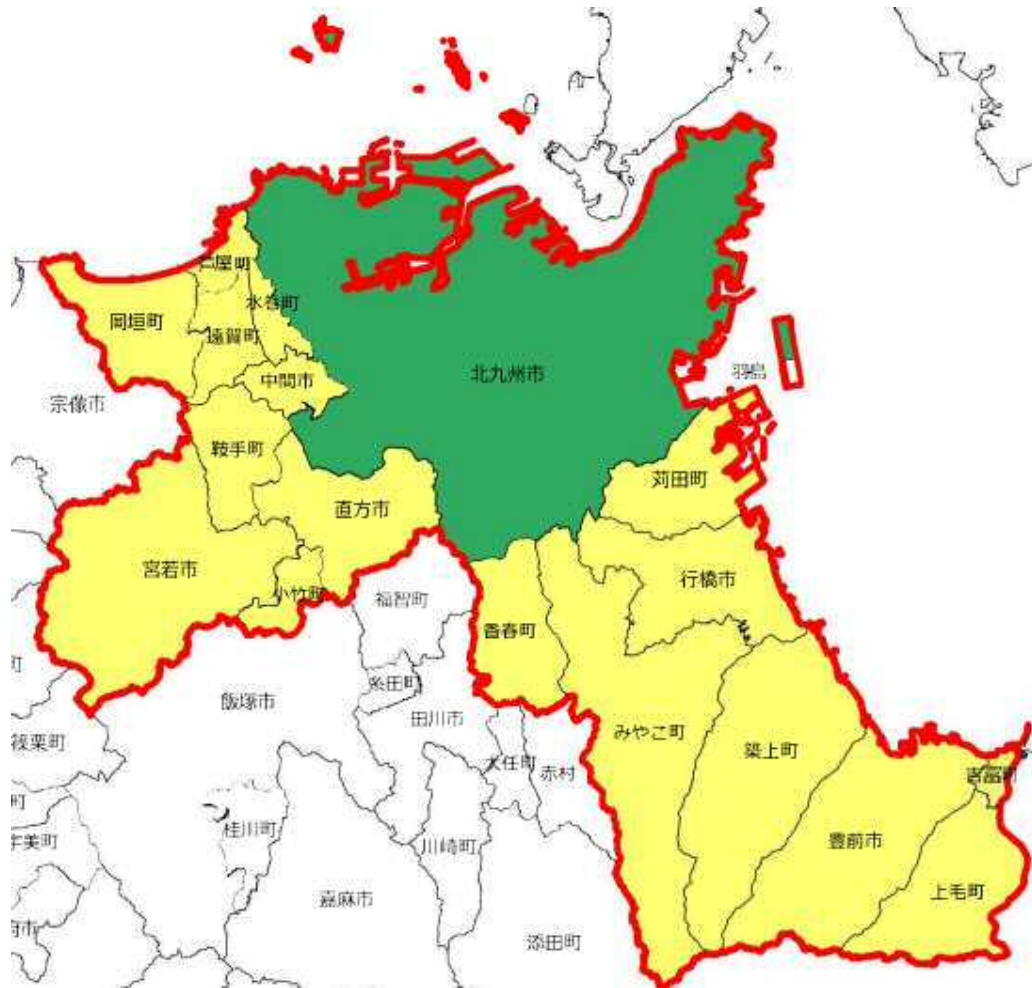
2025年度までの公共施設の再エネ100%電力化

都道府県・政令指定都市最速での市内の再エネ利用による
地産地消型の公共施設RE100化



公共施設のRE100（再エネ100%北九州モデル）

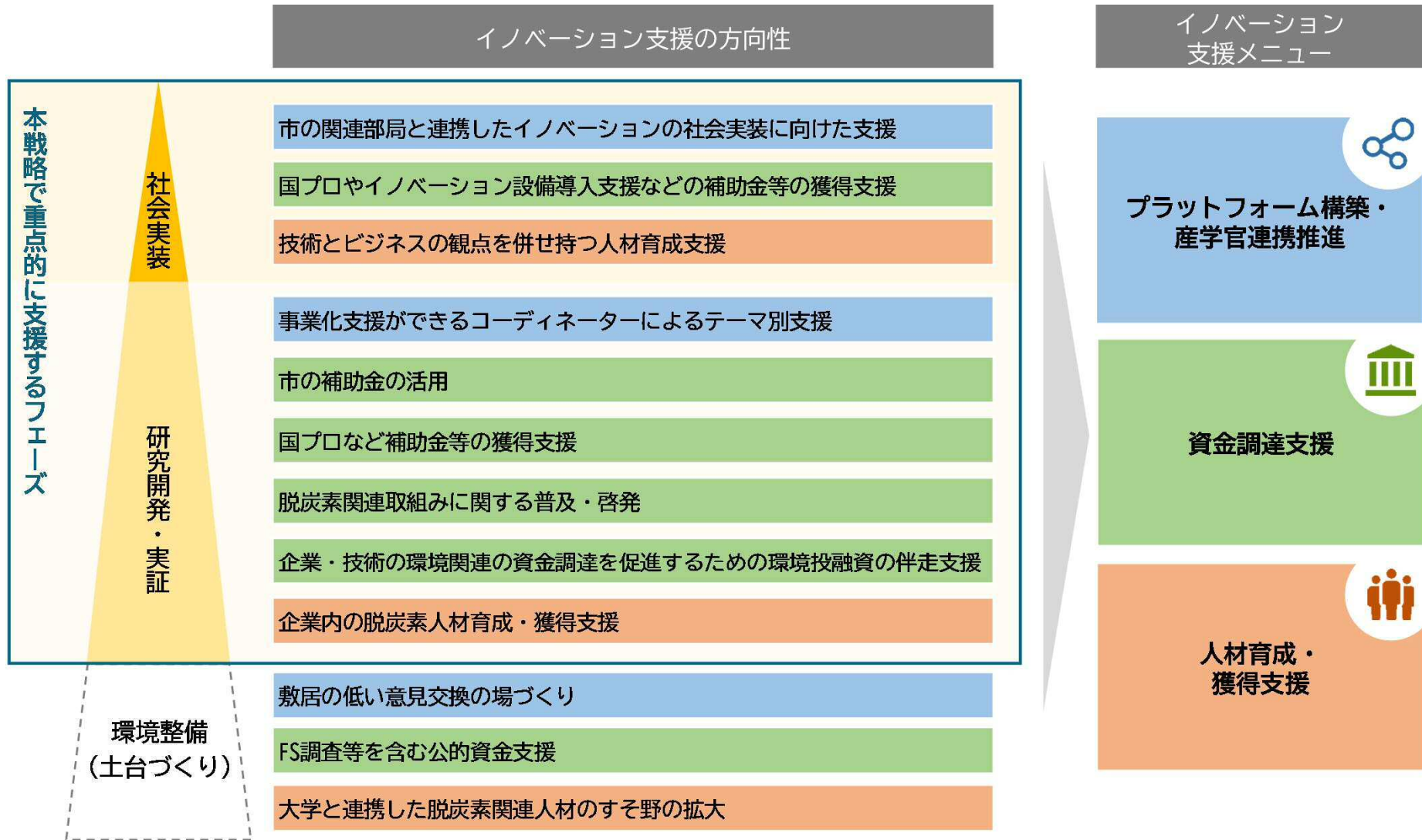
北九州都市圏域で連携して広域で導入



北九州市と6市町村によるRE100
電力調達を共同発表（2021/6/24）



イノベーション支援の方向性と支援メニュー



自動車関連産業の脱炭素化支援(2021年12月発表)

脱炭素化に向けた世界的な潮流の中で、サプライチェーン全体での脱炭素化の動きが高まっている自動車関連産業の支援を開始

支援メニュー①：個別企業における排出量算定及び省エネ対策支援

- 温室効果ガス排出量把握支援
- 省エネ診断
- 各種助成制度の紹介

支援メニュー②：アンケート実施による再エネ電力切替と再エネ導入支援

- 再エネ電力100%への切替によるコストメリットの評価
- 自家消費型太陽光・蓄電池の導入可能性評価
- 各種助成制度の紹介

支援メニュー③：自動車関連企業向けセミナーの開催

- セミナー開催（優良事例等に関するセミナー）



小倉城



東田高炉



平尾台



皿倉山夜景

ご清聴ありがとうございました